

阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略

あなん〔地域好循環〕総合戦略

平成 28 年 3 月



目 次

I	総合戦略について	1
1.	総合戦略策定の背景	1
2.	徳島県の総合戦略	3
3.	阿南市人口ビジョンとの関係	4
4.	計画期間	5
5.	推進・検証体制	5
II	阿南市の総合戦略	6
1.	阿南市総合戦略に求められること	6
2.	阿南市総合戦略の施策体系	8
	高規格道路と国道55号那賀川大橋4車線化の早期実現	9
基本目標1	地域における安定した雇用を創出する	10
基本目標2	地方への新しいひとの流れをつくる	13
基本目標3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	16
基本目標4	時代に合った地域をつくり、 安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する	18
基本目標5	未来の阿南市を見据え、地域創生を追及する	21
III	結びに	22

I 総合戦略について

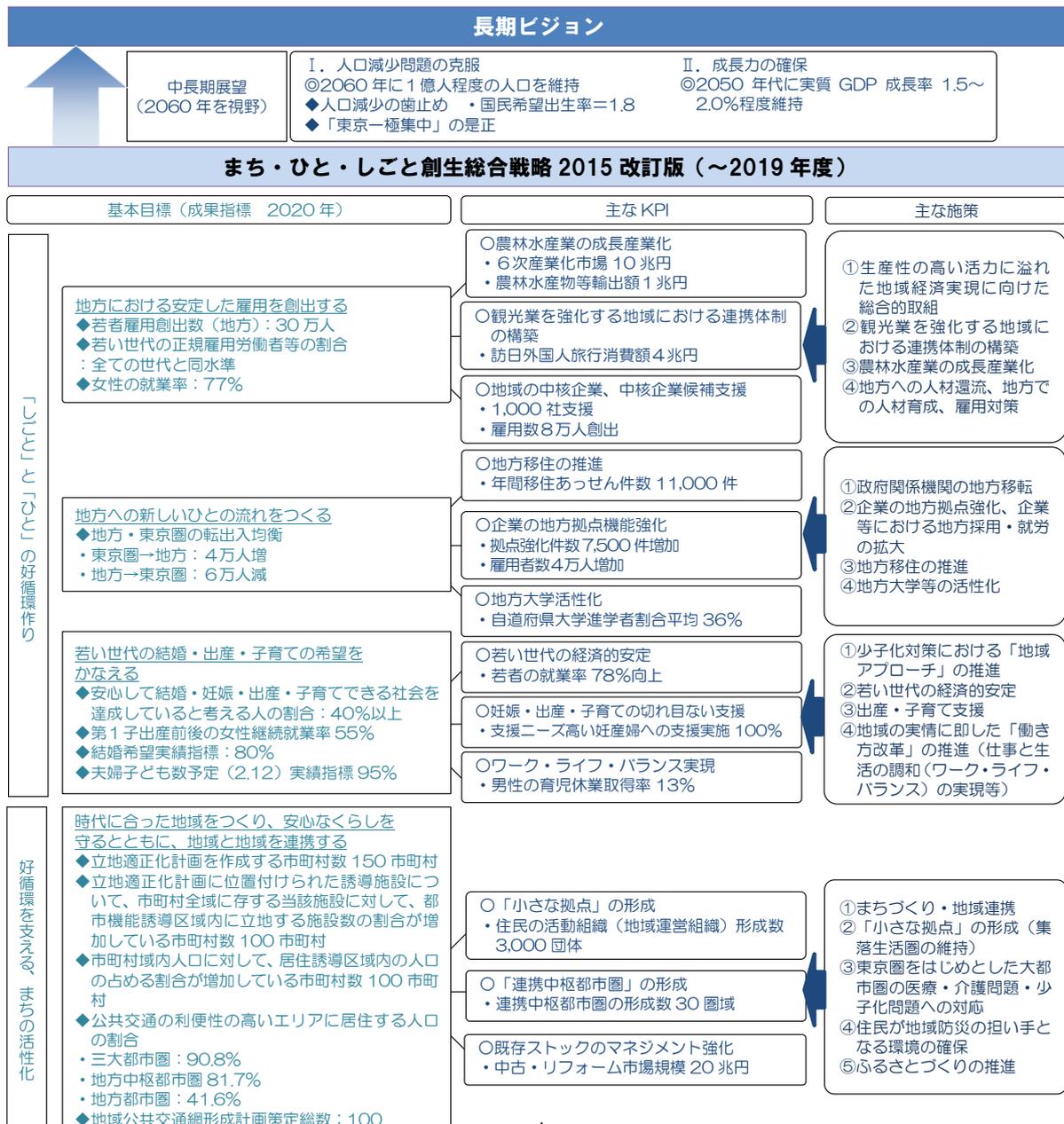
1. 総合戦略策定の背景

我が国では、2008年をピークとして人口減少局面に入っており、2050年に9,700万人程度、2100年に5,000万人未満となる推計があります。また、地域間経済格差等が、若い世代の地方から東京圏への流出、ひいては東京圏一極集中を招いています。

こうした背景に対応するため、「まち・ひと・しごと創生法」と「地域再生法の一部を改正する法律」が成立しました。この「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国では「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、平成26年12月27日に閣議決定しました。

この国の長期ビジョン及び総合戦略に基づき、阿南市においても「地方版総合戦略」を策定します。

【国の長期ビジョン及び総合戦略 2015(改訂版)の概要】



また、国では、まち・ひと・しごと創生に関して、政策5原則を掲げており、地方自治体においては、「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」を策定するにあたって、これら5原則に基づく必要があるとしています。

【政策5原則】

① 自立性

構造的な問題に対処し、地方自治体、民間事業者、個人等の自立につながる施策にする。

② 将来性

地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。

③ 地域性

各地域の実態に合った施策を受け手側の視点に立って支援する。

④ 直接性

最大限の成果をあげるため、まち・ひと・しごとを直接的に支援する施策を集中的に実施する。

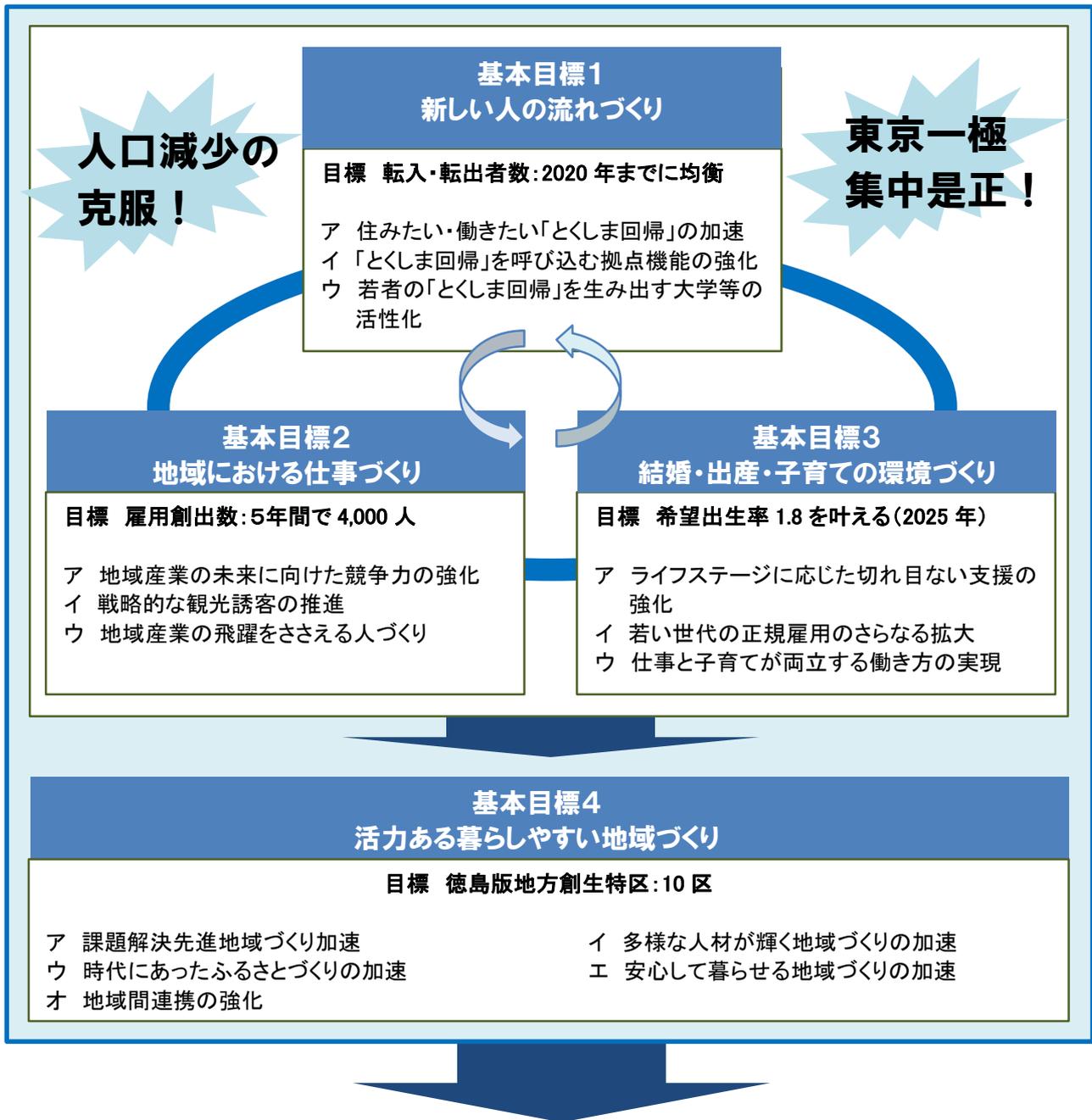
⑤ 結果重視

PDCAメカニズムのもと、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

2. 徳島県の総合戦略

徳島県では「新未来とくしま」の創造に向けて、以下4つの基本目標を掲げ取り組むこととしています。

「vs 東京『とくしま回帰』総合戦略【2015～2019】



～ 「新未来とくしま」の創造 ～

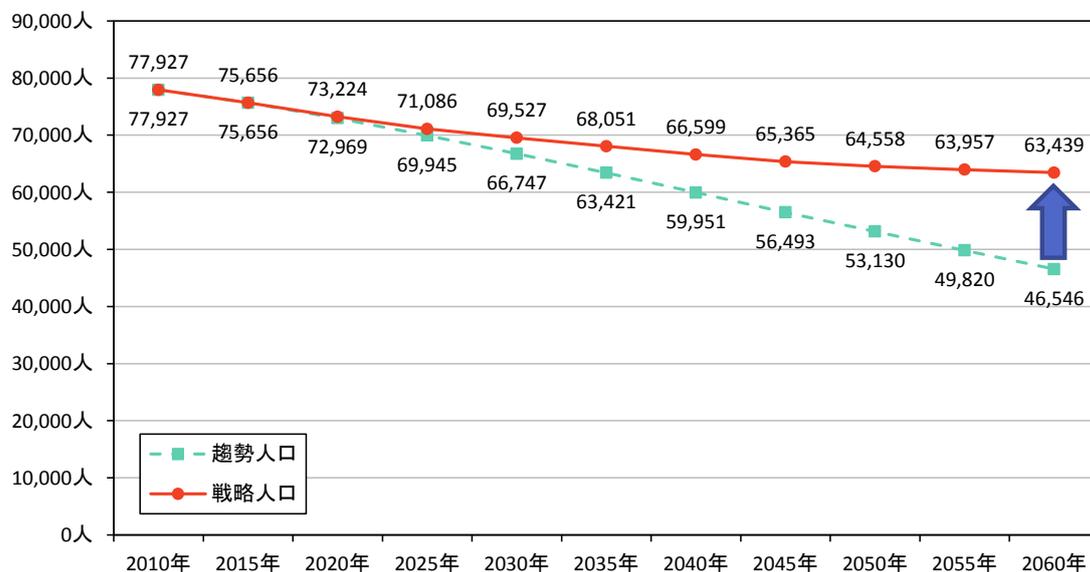
3. 阿南市人口ビジョンとの関係

○阿南市の人口は昭和 55 年（1980 年）をピークに人口減少に転じ、平成 22 年（2010 年）には約 76,000 人となっています。平成 26 年（2014 年）の合計特殊出生率は“1.34”となり、全国・徳島県の値は上回っていますが、人口構造の高齢化に伴う死亡者数の増加によって、近年は約 300 人前後の自然減の状況が続いています。

この間、年少人口（0～14 歳）比率は 22.5%から 13.5%に減少したのに対し、高齢化率は 11.6%から 26.8%に増加しており、本市においても少子高齢化が進行しています。

○「阿南市人口ビジョン」においては、こうした人口動向が続いたとすると、平成 52 年（2040 年）には本市の人口は 60,000 人を割り込み、さらに平成 72 年（2060 年）には 46,500 人程度までに減少する見通しであることを示しています。

【阿南市人口ビジョンの戦略人口】



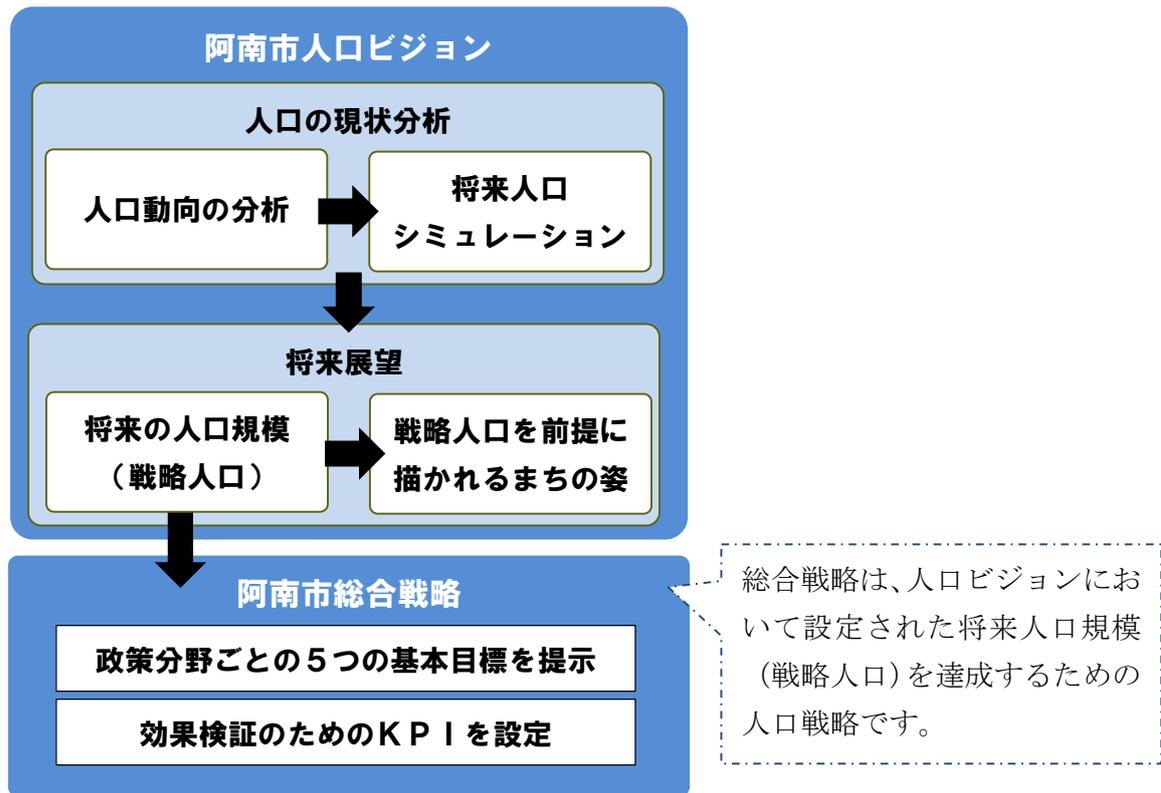
○都市における人口規模の大幅な縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口の減少の結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活における様々なサービス・利便性が低下していくとともに、こうした都市機能・生活機能の低下により、さらに人口の転出を促すという悪循環に入り込むことが危惧されます。

○人口の問題は規模だけの問題ではなく、人口の年齢構造の問題でもあり、このまま少子高齢化の傾向が続いた場合、高齢介護等をはじめとするサービス需要の増加だけではなく、長期的に安定的な人口規模を維持することも困難となることから、少子高齢化を抑制し、人口構造を健全化する必要があります。

○こうした人口問題に対して、「阿南市人口ビジョン」では、平成 72 年（2060 年）における戦略人口として 63,000 人超の人口規模をめざすことを掲げています。

○「阿南市総合戦略」は、長期的視点としてはこの戦略人口の達成を図ることを視野に、今後 5 年間の取組の方向性や施策等について明らかにするものです。

【人口ビジョン・総合戦略の関連】

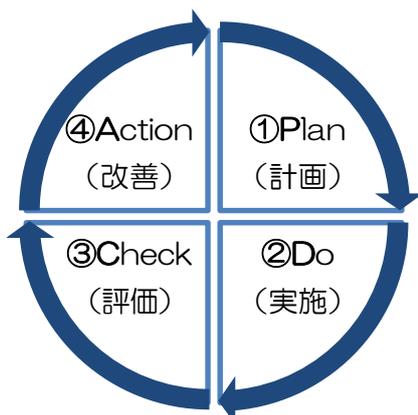


4. 計画期間

本戦略の計画期間は、平成27年度～平成31年度までの5年間とします。

5. 推進・検証体制

- 本戦略では、基本目標ごとに数値目標を掲げるとともに、具体的な施策ごとに目標値（KPI）を設定します。
- 施策の成果・効果については、庁内検討会議、産官学金労言の各分野の委員で構成された審議会を検証機関として検証を行うとともに、議会の審議やパブリックコメントなどの幅広い意見を踏まえ、必要に応じて改善を行う仕組み（PDCAサイクル）を構築、実行していきます。



＜総合戦略におけるPDCAサイクル＞

- ① 総合戦略の策定
- ② 施策・事業の着実な実施
- ③ 実施した施策・事業の効果をKPI等により検証
- ④ 必要に応じた総合戦略の改定

II 阿南市の総合戦略

1. 阿南市総合戦略に求められること

「阿南市人口ビジョン」で示したように、人口減少社会を背景に本市の趨勢人口は平成 72 年（2060 年）には 46,500 人規模にまで減少することが想定されますが、こうした減少傾向に対して、今後、戦略的な取組を講じることにより、63,000 人超まで減少を抑制することが可能と考えます。

この平成 72 年（2060 年）までを視野に入れた長期的なビジョンに対して、平成 31 年度（2019 年度）までの戦略的な取組を示す「阿南市総合戦略」では、次の 2 つの視点が求められることとなります。

人口減少を抑えること

人口減少に備えること

「人口減少の抑制」「人口減少への準備」のために、「阿南市総合戦略」では、次の基本方針と 5 つの基本目標を柱として、取組を推進していきます。

【基本方針】

「豊かな自然と調和した産業都市」として「持続可能な発展」を進めます

○基本方針に沿ったまちづくりを進めるため、市内各産業における次世代の担い手、さらには未来の世代につながる人材の確保を図ります。「ひと」が「しごと」を呼び込み、「しごと」が「ひと」を呼び込む好循環により、2060年においても「住みたい、住みやすい、住んでよかった」と思っただけのまちの実現をめざします。

高規格道路と国道55号那賀川大橋4車線化の早期実現

基本目標5

未来の阿南市を見据え、地域創生を追及する

総合戦略の枠組みにとらわれず、阿南市に住んで良かったと実感できるまちづくりを実現する。

好循環

基本目標1

地域における安定した雇用を創出する

LED製品の研究・開発、農産物のブランド化等を核とした本市独自の産業の強化を図るとともに、産業間連携や創業・起業支援を通して新たな雇用を創出する。

基本目標2

地方への新しいひとの流れをつくる

観光・交流の拡大による人の流れを促進し、UIターン策による新たな定住の流れをつくり出す。

しごと

ひと

まち

基本目標4

時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

住民みんなの支えあいや交流による暮らしやすい環境づくりと、地方創生にふさわしい住民参加の地域運営の仕組みを構築する。

基本目標3

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

出会い・結婚・出産・子育てのトータルな支援体制を充実する。

2. 阿南市総合戦略の施策体系

「阿南市総合戦略」の施策体系は、次のとおりとなります。

高規格道路と国道55号那賀川大橋4車線化の早期実現

基本目標 1 地域における安定した雇用を創出する	新産業の創出	①企業誘致 ②創業・起業等の支援 ③商業・サービス業の活性化
	地域産業の振興	①産業間連携 ②新規就業・後継者育成 ③産業の強化
基本目標 2 地方への新しいひとの流れをつくる	移住・定住の促進	①U・I・Jターン促進 ②情報提供の仕組み構築
	交流の拡大	①『光のまち 阿南』の取組推進 ②『野球のまち あなん』の取組推進 ③観光・集客拠点の整備
	新たなつながりの創出	①大学との連携によるつながりの創出 ②広域連携によるつながりの創出
基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	出産希望の実現	①子育て支援 ②子育て環境の整備
	結婚希望の実現	①結婚希望の実現
	若者の家庭づくりを応援	①若者の“あなん回帰”
基本目標 4 時代に合った地域をつくり、 安心な暮らしを守るとともに、 地域と地域を連携する	地域コミュニティの活性化	①地域活動の活性化
	安心な暮らしの確保	①地域医療体制の確立
	安心なまちづくり	①空き家対策 ②公共施設の維持・管理 ③コンパクトシティ・プラス・ネットワーク
	定住自立圏の拡充	①定住自立圏共生ビジョンによる取組事業の推進
基本目標 5 未来の阿南市を見据え、 地域創生を追求する	未来の戦略づくり	①調査研究機関の設置と首都圏との連携強化

～【基本方針】を実現するための重要施策～

高規格道路*と国道55号那賀川大橋4車線化の早期実現

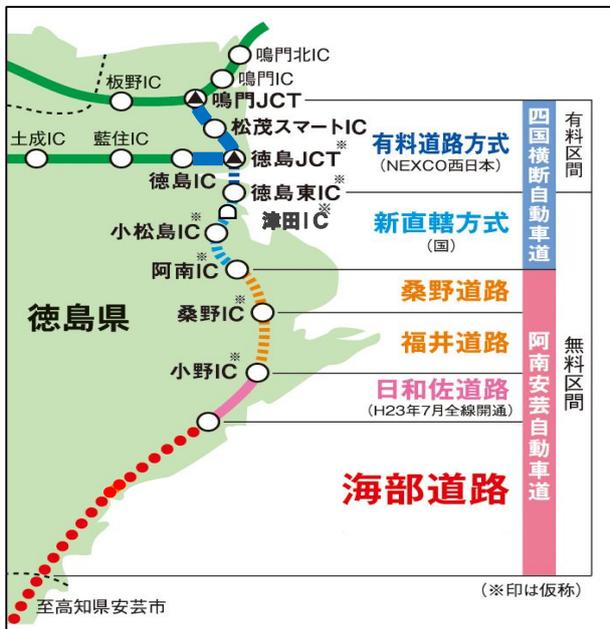
阿南市は、西日本屈指の「豊かな自然と調和した産業都市」であり、世界的なLED生産拠点でもあります。本市の企業には、大きく飛躍する可能性を持ちながら、道路事情からそのポテンシャルが活かしきれていないといった現状が見受けられます。また当該施策は本市のみならず、徳島県南部、さらには四国東南部の将来を決定する極めて重要な事柄です。



[那賀川大橋]徳島方面からの朝の通勤ラッシュ

本市が、四国東南部の拠点都市として、このエリアの「人口のダム」機能を果たすためにも、『高規格道路と国道55号那賀川大橋の4車線化の早期実現』をめざし、徳島県をはじめ関係市町、そして住民の皆様とともに、国への要望活動を行ってまいります。

また、当該施策の戦略効果をさらに高めるため、国道55号阿南道路と四国横断自動車道及び阿南安芸自動車道を連結する東西アクセス道路の整備を推進してまいります。



* ここでいう高規格道路とは、高規格幹線道路である“四国横断自動車道”と、地域高規格道路である“阿南安芸自動車道”の総称として用いています。

基本目標 1 地域における安定した雇用を創出する

数値目標

雇用創出数 5年間で 1,000 人

基本的方向

- 企業誘致や創業・起業支援によって、新産業の創出を支援します。
- 新規就業・後継者育成の支援や農作物等のブランド化の推進により、地域産業の振興を図ります。

I 新産業の創出

～重要業績評価指標(KPI)～

- ◆起業力養成講座 1講座あたり 10人受講(×14回=140人)うち創業者1名
- ◆空き店舗の活用による開店数 年1件以上

企業誘致

○企業との情報交換や交流機会の拡充及び企業訪問の強化により企業誘致を推進していきます。

創業・起業等の支援

- テレワーク（ICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方）による起業・就労を支援し、女性が安心して働くことができる環境づくりを進めます。
- 創業支援講座の開設や金融機関等関係機関と連携し、創業を志す人をバックアップします。
- 阿南工業高等専門学校と連携し、本校が持つ人的・知的資源の活用により、新産業の創出に取り組みます。

強化事業

◆起業力養成講座事業

阿南市独自の創業支援講座を阿南商工会議所において開催する。講座は、創業時において、公的融資制度活用に有利な内容で実施し、市内での創業希望者の支援を図る。

主要事業

◆阿南市インキュベーションセンターによる創業支援

平成 21 年度阿南工業高等専門学校の敷地内に整備した「阿南市インキュベーションセンター」において、学官連携施設として、高度で専門的な知識と研究・開発に不可欠な資機材の提供等を行い、新技術や研究成果を発信する拠点施設とすることにより、ベンチャー企業等の創業の支援を行っている。



阿南市インキュベーションセンター

商業・サービス業の活性化

○個々の商店等においては、量より質の向上をめざし、店構え・品揃え、サービス形態の工夫等に取り組むことが求められています。商店街・商業集積においては、ハード(駐車場整備など)とソフト(イベント事業など)を組み合わせること等により、消費生活に密着した魅力ある商店街・商業集積づくりに取り組んでいくことが重要です。大型店との共存共栄を図りながら、商業・サービス業の振興に取り組みます。

強化事業

◆空き店舗の活用補助金交付制度の創設

空き店舗の利用を通じて、まちの賑わいを創出するため、市内の空き店舗を活用して事業活動を行う者に対して補助金を交付する(補助限度額 100万円/件)。
対象エリアは市全域であるが、椿・福井・新野・加茂谷地区から申請があった場合は、買い物困難地域であることに配慮し、優先的に採択するものとする。

II 地域産業の振興

～重要業績評価指標(KPI)～

◆阿波美人生産戸数 430戸

◆露地野菜栽培面積 1.5倍

◆プレミアム阿波美人の作付面積 20ha

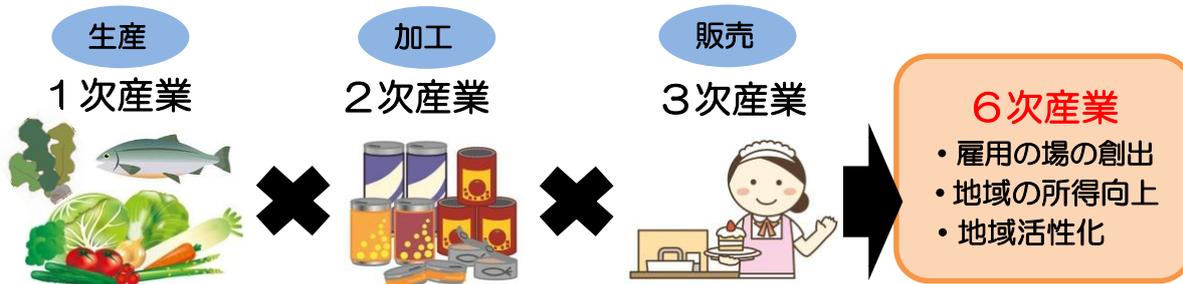
◆放置竹林再生面積 30ha

産業間連携

○農林水産業を基軸とした新たな複合産業をつくり出すため、「1×2×3=6次産業」化への展開を推進するとともに、加工特産品の開発を奨励し、販売促進に取り組めます。

○放置竹林等の第1次産業における諸課題を解決する「キーワード」として、“産業間連携”を軸とした取組を推進します。

<6次産業の考え方>



新規就業・後継者育成

○農用地の集積や認定農業者制度の活用により、市の基幹産業である農業の担い手・後継者対策を推進します。

○林・漁業については、森林組合・漁業協同組合と協働で、後継者の育成等に取り組めます。

産業の強化

- インフラ整備をはじめ企業ニーズに即した操業支援により、一層の企業振興を推進します。
- 『中小企業振興条例』の制定により、市内の中小企業へのサポート体制を強化します。
- 基幹産業である農林水産業の維持・発展のため、ブランド力の強化や特産品の生産（養殖）振興、安定供給化の推進などにより、経営基盤の強化に取り組みます。

強化事業

◆農産物スーパー産地化推進事業

1. ふるい網目等導入助成事業

早期米のコシヒカリ「阿波美人」の出荷規格の見直しや食味計の導入により、米の規格・品質の向上を促し、ワンランク上の売れる米づくり（早期米コシヒカリのブランド化）をめざす。

2. 露地野菜産地化推進事業

生産振興品目の種苗費並びに当該作物の品質向上のための土壌改良を行う際の堆肥、肥料に対して助成を行う。



早期米の刈り取り風景



辰巳工業団地

基本目標 2 地方への新しいひとの流れをつくる

数値目標

2025年までに転出超過から転入超過へシフト
2020年までに転出超過 40%削減
(平成22年～平成26年平均▲126人)

基本的方向

- UIJターン希望者への就業支援や情報発信等により、移住・定住の促進を図ります。
- “光のまち 阿南” “野球のまち あなん”の取組推進や、若者や外国人観光客をターゲットとした観光・集客拠点の整備により、交流人口の拡大を図ります。
- 大学や広域連携によるつながりの創出により、阿南市へのひとの流れを創出します。

I 移住・定住の促進

～重要業績評価指標(KPI)～

- ◆移住について具体的な相談に入っている人数 10人
- ◆新たに市外から雇用し、市内に転入した人数 30人

UIJターン促進

- 若い世代にターゲットを絞り、移住・定住の促進対策に、県と周辺市町が一体となって取り組むことにより、人材環流と地域活性化の促進を図ります。
- 首都圏を中心に、全国のUターン希望者等の就業支援による移住促進と、Uターン等人材の活用奨励による市内企業の振興を図るなど、『ひと』が生き、『しごと』が生まれる取組を推進します。
- 奨学金制度を拡充し、優秀な人材の地元回帰を促します。

強 化 事 業

◆「四国の右下」若者創生事業

徳島県と1市4町（阿南市、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町）が一体となって、「『四国の右下』若者創生協議会」を設置し、サテライトオフィスの誘致拡大と、若い世代にターゲットを絞った移住・定住支援を行う。

具体的には、①情報発信、②地域イノベーター創出、③起業支援、④住宅支援の4本を柱として事業を実施する。



阿南市サテライトオフィス第1号
「屯（たむろ）はる」

強 化 事 業

◆阿南市UIJターン促進事業の推進

1. 東京事務所及び本庁に、現在阿南市外在住の方で、阿南市内での事業所に就職を希望する方に向けた“人材バンク”を設置。（阿南市内への転入が条件）
 - ・人材の受け入れを希望する企業にはハローワーク阿南に登録してもらい、市内企業の受入体制を構築する。
 - ・ハローワーク阿南に“UIJターン専用窓口”を設置し、人材と企業のマッチングを促進する。
2. 市外から受け入れた人材が就職・移住して1年経過した際は、企業に対し、雇用賃金の20%相当額（上限50万円/人）の補助を行う。

情報提供の仕組み構築

○大都市圏における就職フェア・移住キャンペーン等イベントの実施や、プロモーションビデオ・全国移住ナビ等のインターネット・メディア媒体の積極的な活用により、情報発信の仕組みを構築します。



阿南市プロモーション動画は、平成 27 年「全国移住ナビ全国コンテスト」において、第二席となる『地域情報満載賞』を受賞。

II 交流の拡大

～重要業績評価指標(KPI)～

◆光のまちステーションプラザ来場者数 年間 3,000 人増(現在 12 千人→15 千人へ)

◆野球のまち事業参加者数 年間 4,000 人増(現在約 11 千人→15 千人へ)

(野球大会、アイランドリーグ、野球観光ツアー、合宿、イベントの合計者数)

『光のまち 阿南』の取組推進

- LED (青色発光ダイオード) 発祥の地として、牛岐城趾公園の「キラキラドーム」「願いの木」等のイルミネーションを中心に、LED 装飾が輝く景観づくりを推進します。
- 阿南駅前「光のまちステーションプラザ」での LED 体験や、「ルミナスタウンプロジェクト」等の LED を活用した多彩なイベントの開催により、交流人口の拡大を図ります。



光マンダラドーム

『野球のまち あなん』の取組推進

- 「アグリあなんスタジアム」を活用した野球観光ツアーや野球大会の誘致、日本プロ野球機構 (NPB) との共同事業、屋内多目的施設「あなんアリーナ」を活用した合宿誘致等、『野球のまち あなん』のさらなる魅力アップにより、交流人口の拡大を図ります。



“野球のまち あなん”のチアガール『AB060』の皆さん

観光・集客拠点の整備

- 「羽ノ浦健康スポーツランド・スケートボード場」「富岡ダンススタジオ」「海洋レジャー施設」等の整備により、若者の交流人口拡大を図ります。
- 若者が集うサーフィン、サイクリング、釣り等の自然環境を活かしたアウトドアスポーツのイベント開催や施設の整備をめざします。
- 外国人観光客の誘致促進のため、公衆無線 LAN の整備や外国語による観光情報の発信に取り組みます。

III 新たなつながりの創出

～重要業績評価指標(KPI)～

◆「伊島・蒲生田ふるさと学・キャンパス」創設事業による阿南市への訪問人数 300人

◆「県南地域づくりキャンパス事業」による阿南市への訪問人数 延べ140人

◆ふるさと会会員数(東京・関西の合計) 100人増(現在366人→466人超へ)

大学との連携によるつながりの創出

○阿南市の地域特性をフィールドとした大学との連携により、交流人口の拡大を図るとともに、若者の発想や視点を活かした新たな地域活性化の取組を推進します。

強化事業

◆全国の自然科学・政策科学を専攻する大学が共有・活用できる「伊島・蒲生田ふるさと学・キャンパス」の創設

- ・ICT環境を整備した「伊島・蒲生田ふるさと学・キャンパス」を空き校舎等に開設する。学生は、伊島・蒲生田フィールドでの体験型演習の受講とともに、ICTの活用による公開ゼミ講義も受講可能とする。
- ・主要な研修テーマは、『自然の恵(生態系サービス)の持続可能な活用に関わる作法』とし、伊島・蒲生田地域の希少で豊かな自然の保全方策、地域観光資源としての活用方策等について、受講生参加型で展開し、この分野の研究者等が世界規模で、この地を訪れる事業に育てることを目標とする。

強化事業

◆県南地域づくりキャンパス事業

徳島県と県南1市4町(阿南市、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町)及び地域住民が一体となって、徳島県南域をフィールドとした大学授業の受け入れや、一次産業の体験実習等を実施することにより、若者の発想や視点を活かした新たな地域活性化のための取組及び交流人口の拡大を図る。



広域連携によるつながりの創出

- 「ふるさと大使」や「東京及び関西ふるさと会」、また「広域連携産業振興シンポジウム」の開催など、大都市圏での活動を通して阿南市応援の輪を広げます。
- 「AMAの国づくりから始まる“四国東南部の一大観光圏”づくり」、「北海道くろしおコンソーシアムによる地域連携」など、共通テーマでの関係市町との連携により、地域活性化の可能性を広げます。

◆AMA地域連携協定

“AMA”とは、阿南市(ANAN)、室戸市(MUROTO)、安芸市(AKI)の頭文字。3市が連携して自然、文化、歴史等、特色ある地域資源があふれる四国東南部の魅力を発信するため、観光周遊コースの調査・研究、情報発信、交流等に県の枠を超えて取り組んでいます。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

結婚や出産に関する希望がかなう場合の出生率（希望出生率）
2020年に1.68、2025年に1.8をめざします。

※言うまでもなく個人の考え方や価値観が尊重されることが前提です。

基本的方向

- 出会い・結婚・出産・子育ての切れ目ない支援と環境整備により、阿南市で子どもを産み育てたい方を応援します。
- 定住に必要な“雇用”と“住まい”の支援により、若者の定住促進を図ります。

I 出産希望の実現

～重要業績評価指標(KPI)～

- ◆ 放課後児童クラブ支援数 26 支援(平成 26 年度末現在 18 クラブ 18 支援)
- ◆ 待機児童数 0人(ゼロ)を維持(平成 27 年度当初の待機児童数0人)

子育て支援

○子育て家庭及び子どもを持つことを希望する方に向けた多様な経済的支援の拡充を図ることにより、出産希望の実現をサポートします。

主要事業

◆子どもの医療費助成の拡充

1. 子どもが病気やけがにより医療機関を受診した際、保険診療や入院時食事代の自己負担額を助成する。
平成 27 年現在 0 歳～中学校までの対象年齢を 18 歳まで延長する。
2. 子どものインフルエンザ予防接種費用の一部助成を行う。



主要事業

◆子どもの保育料、私立幼稚園授業料等の支援

1. 多子世帯の保育料の軽減を図る。(幼稚園(新制度に移行した幼稚園のみ)や保育所、認定こども園等をきょうだいで利用する場合、最年長の子どもから順に2人目は半額、3人目以降は無料)
2. 第3子以降の給食費の無料化を実施する。
3. 私立幼稚園の授業料の軽減を支援する。

子育て環境の整備

- 地域子育て支援センター事業や、一時預かり、病児・病後児保育、ファミリーサポートセンター事業等の取組を中心に、子育て支援体制のより一層の充実を図ります。
- 仕事と子育てを両立するための職場環境づくりの推進や、延長保育の充実など、女性が安心して働くことができる環境づくりを整備します。

主要事業

◆放課後児童クラブの拡充

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生に対して、授業の終了後に児童厚生施設等を利用して適切な遊び及び生活の場を与える放課後児童クラブについて、ニーズの増加に合わせた新規開設等の拡充を検討し、安定して運営できる仕組みづくりに取り組む。

II 結婚希望の実現

～重要業績評価指標(KPI)～

◆婚活イベントによる成婚数 年1組

結婚希望の実現

- 「恋人の聖地」ブランドの積極的な活用により、婚活イベントの魅力・発信力の強化を図り、結婚を希望する男女の出会いの場を創出します。
- 「阿南 de 愛隊」による取組の充実を図るなど、結婚に向けた自分磨きの支援を行います。



III 若者の家庭づくりを応援

～重要業績評価指標(KPI)～

◆伊島の若者定住促進住宅入居戸数 5戸

若者の“あなん回帰”

- “親孝行するために、子どもが帰ってきたくなるまち”の実現をめざし、民間活力と連携して「若者定住促進本部」を設置します。
- UIJターン希望者に向けた就業支援や、伊島における若者住宅の整備等、定住に必要な条件となる“雇用”と“住まい”の支援を行うことで、若者の定住促進を図ります。



伊島の全景

基本目標4 時代に合った地域をつくり、 安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

数値目標

理想とする幸福度に対する満足度 95%超
(平成27年度調査結果 93%)

◆幸福満足度

理想とする幸福度に対する現在の幸福度の割合。例えば、現在の幸福度を7、理想とする幸福度を7と答えた場合、幸福満足度は100%となる。平成27年度の調査では、現在の幸福度が理想とする幸福度以上と回答された方（幸福満足度100%以上の方）が、全体の過半数を占めていました。

基本的方向

- 新しい地域活動への取組支援や地域おこし協力隊の導入等により、地域コミュニティの活性化を図ります。
- 地域医療体制の確立により、住民誰もが健康で安心して生活できる環境づくりに取り組みます。
- 既存施設の維持・管理や定住自立圏の拡充等、人口減少社会に対応した新たなまちづくりを推進します。

I 地域コミュニティの活性化

～重要業績評価指標(KPI)～

- ◆「わたしのまちの創生事業」によりまちの活性化に挑戦する人数 100人

地域活動の活性化

- “まちの幸福”をめざした地域活動への取組支援により、地域コミュニティの再生・活性化を図ります。
- 地域おこし協力隊等の導入により、観光資源のPRやイベントの企画・運営、地域住民の生活支援等を行い、人口減少地域のまちづくり、コミュニティの維持・活性化を図ります。

強化事業

◆わたしのまちの創生事業

地域コミュニティ等が自発的・主体的に行う地域の活性化につながる個性豊かな魅力ある地域づくり事業を支援する制度。新しい地域活動の取組の契機を提供することにより、地域コミュニティが本来持つ力の再生を図る。

主要事業

◆加茂谷元気なまちづくり会～武蔵野大学との連携～

人口減少が続く加茂谷地区の活気あるまちづくりと若者の定住化促進に向け、平成24年度に設置された「加茂谷元気なまちづくり会」では、ホームページ・Facebook等を通し、加茂谷地区の産業、文化、観光等の定期的な情報発信やインターンの受け入れによる都市部との積極的な交流に挑戦しています。



平成26年度から武蔵野大学の学生ボランティアを受け入れ

II 安心なくらしの確保

～重要業績評価指標(KPI)～

◆新たに確保する医師数 3人

地域医療体制の確立

- 「阿南地域糖尿病センター」の設置や、「阿南医療センター」の整備を通して、住民誰もが健康で安心して生活できる地域医療体制の確立を図ります。
- 「高齢者お世話センター」を中心として、高齢者が住み慣れた地域で自立的に健やかな生活を送るための取組を推進します。
- 全国の死亡原因第一位であるがんによる死亡者数減少をめざし、乳がん、子宮頸がん検診の支援を拡充します。

強化事業

◆阿南地域糖尿病センター設置事業

阿南市の拠点病院である阿南共栄病院内に、徳島県が全国ワーストワンである糖尿病に関して、徳島大学病院との共同研究を行う”機関”として、「阿南地域糖尿病センター」を設置するとともに、県南部の糖尿病患者に対する診療体制を構築する。

主要事業

◆阿南医療センターの整備

阿南市の中核病院である阿南共栄病院、阿南医師会中央病院の統合により「阿南医療センター」が設立（平成29年度開院予定）。二次救急医療体制が強化され、24時間365日の受入体制が整う。新病院建設に伴う周辺整備を含め、センター開設に向け全力で支援する。

III 安心なまちづくり

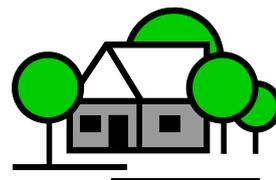
～重要業績評価指標(KPI)～

- ◆空き家問題を解決する民間市場サイクルを平成 31 年度までに確立する。
- ◆「公共施設等総合管理計画」を平成 28 年度末までに策定する。
- ◆都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」を平成 31 年度までに策定する。

空き家対策

○空き家対策プロジェクトチームを設置し、関係団体と協力しながら、官民協働による抜本的な空き家対策を進めます。(空き家調査、危険家屋の除却⇒更地の管理または活用、利用可能物件の補修・管理または活用)

○民間市場サイクルの確立により、安全安心なまちづくりが進められるとともに、地域経済の活性化にもつながります。



公共施設の維持・管理

- 「公共施設等総合管理計画」を策定します。
- 市役所新庁舎の建設をはじめ、公共施設の総合的かつ計画的な管理を推進します。



阿南市役所新庁舎高層部

コンパクトシティ・プラス・ネットワーク

- 都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」を策定します。
- 医療・福祉施設、商業施設や住居等の立地、高齢者をはじめとする住民の交通アクセスなど、都市全体の構造を見直し、持続可能なまちづくりを進めます。

IV 定住自立圏の拡充

～重要業績評価指標(KPI)～

- ◆定住自立圏を拡充(現1市2町→1市4町へ)し、平成 29 年度から新たな共生ビジョンの取組をスタートする。

定住自立圏共生ビジョンによる取組事業の推進

- 現在、阿南市を中心市とする那賀町・美波町との定住自立圏を、牟岐町・海陽町を加え徳島県南域全体に広がります。
- 徳島県南の 1 市 4 町がスクラムを組んで、移住・定住の取組を強化します。

基本目標5 未来の阿南市を見据え、 地域創生を迫及する

数値目標

地方創生を迫及する新たなチャレンジ 5年間で10事業

基本的方向

- 調査研究機関の設置等により、既定の枠組みにとられない阿南市ならではの戦略づくりとチャレンジを推進します。

I 未来の戦略づくり

～重要業績評価指標(KPI)～

- ◆「あなん未来会議」による提案数 年10件以上
- ◆大正大学との連携による地域実習生の受入数 毎年7人

調査研究機関の設置と首都圏との連携強化

- 首都圏との連携強化を念頭に「あなん未来会議」等、高度な産学官共同プロジェクトを始動することにより、既定の枠組みにとられない戦略づくり体制を構築します。
- 大正大学地域創生学部の学生（地域実習生）を毎年2カ月程度受け入れ、地域住民とともに地域活性化モデルの実証に取り組みます。

主要事業

◆「あなん未来会議」による独自の地方創生の推進

- ・全国で地方創生への取組が始まる中、国・県との総合戦略の整合性や時間的な制約等にとられず、大きな視点で阿南市の未来を考える独自の組織として、『あなん未来会議』を設置。

会議は国際的、専門的、経営的感覚を持った委員構成により、職員や市民とは異なる視点からの斬新なアイデアやまちづくりのヒントを生み出すことをめざす。



平成27年度には「あなん未来シンポジウム」を開催し約650名が参加。解剖学者の養老孟司さんの講演やパネルディスカッションが行われた。

- ・また、大学の幅広いネットワークや学問としての高い知見をさらに活用するため、「大正大学との連携に関する包括協定」に基づき、当大学地域構想研究所と合同で『あなん未来会議』の運営や実証実験等に取り組みながら、新たな発想による産学官共同プロジェクトを推進する。

III 結びに

だいいちだいまんだいきち

遡ること400余年、安土桃山時代の武将・石田三成は、「大一大万大吉」の旗印を掲げ、天下分け目の決戦に挑みました。「一人が万人のために、万人が一人のために尽くせば、すべての人が幸福になり、太平の世となる」。“無双の才覚”と讃えられた三成の思いは、フランスの小説家・アレクサンドル・デュマの小説「三銃士」で引用された「One for all All for one (ワソフォール オールフォアソ)」に通じるものがあります。訳し方には諸説がありますが、この物語では「一人はみんなのために、みんなは勝利のために」という意味で使われたとされ、現代ラグビーの基本精神を表す言葉としても広く知られています。

昨年のラグビーワールドカップ2015イングランド大会で、日本代表が世界3強の一つである南アフリカから歴史的な金星を挙げたことは記憶に新しく、年末年始のTV番組でも何度も取り上げられ、あらためて国民の関心の深さと与えた影響の大きさを感じました。

世界中を驚嘆させたあの結実のトライは、「すべてはワールドカップのために」の思いで磨き上げた“スクラム”から生まれました。個々の自立を促し、チームプレイの本質である“相乗効果”を生み出す「All for one (オールフォアワン)」の精神を、世界最高の舞台で見事に体現した選手たちの勇姿は、地方創生に立ち向かう私たちが目指す姿であり、歩むべき道筋ではないでしょうか。

市民お一人おひとりが家族のために、また地域みんなのために、そして市民の皆様全員が“明日の阿南市のために”の思いを一つにさせていただき、明るい未来の創造に一丸となってトライし続けていくことが、ともに阿南に住む幸せを享受する正道であると信じています。

本戦略の策定を機として、市民の皆様と“まちの創生への挑戦”を通して得られる達成感や幸福感など“新たな価値”を共有し、20年後、30年後の阿南市においても「住みたい、住みやすい、住んでよかった」と思っていただけの市政の実現に向け、尚一層の取組強化を図ってまいります。

結びに、本戦略の策定にあたりまして、ご尽力を賜りました総合計画審議会委員並びに市議会議員の皆様をはじめ、貴重なご提言をいただきました市民の皆様にお礼を申し上げます。

平成28年3月

阿南市長 いわさ 岩浅 よしひと 嘉仁

しごと・ひと・まち
～そして未来へ～



あなん〔地域好循環〕総合戦略

阿南市 企画部企画政策課

〒774-8501 徳島県阿南市富岡町トノ町 12 番地 3

TEL:0884-22-1111